第43回 **診療所事務長の仕事術**

診療所事務長はどんな仕事をしているのか。そんな疑問に、一般社団法人診療所事務長会のメンバーが答える。第43回目は、医療法人ロングウッドの竹入沙知氏だ。

長期にわたり信頼関係を築ける医師採用を心がける

竹入沙知氏
医療法人ロングウッド事務長

たけいり・さち●高校卒業後、管理栄養士として大手調剤薬局に就職。その後、医療サプリメント関連ベンチャー企業の経営企画職を経て医師25人の大規模診療所新規開院に携わる。同院で事務長代理を務めた後、2015年より現職。前田クリニック立ち上げから法人化、増患にともなう敷地拡張、分院・鍼灸院開設までを主導する

糖尿病内科、循環器内科、内分泌内科に加え、漢方や心臓リハビリテーション、アロマセラピーなどの専門外来も設けている当院では、鍼灸院も運営しています。さらに、大阪府高石市に分院（漢方内科）・鍼灸院を開設し、今夏には京都烏丸にも分院（糖尿病内科）を展開予定です。

そのため医師の採用には力を入れており、本院では院長（理事長）ほか非常勤医師７人、分院には院長１人と法人全体で９人の医師が常駐しています。今夏開設予定の分院には院長と非常勤医師２人、３人の新規雇用を予定しています。

なお、医師以外は管理栄養士、看護師、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師、健康運動指導士、ヨガ療法士、医療事務など総勢40人が在籍中です。

医師採用は長期雇用を前提としているため、基本的に人材紹介会社などは利用せず、▽理事長の出身大学の医局人事、▽理事長の昔からの知人、▽私（事務長）が以前勤務していた医療機関でお世話になった先生――など縁故のみでの採用です。技量と人柄をよくわかったうえで採用させていただくためトラブルが少なく、コミュニケーションがスムーズに進むからです。

また、採用にあたり留意しているのは、以下の５点です。

①当院概要や雇用条件を提示

大学の医局人事に関しては、糖尿病や循環器などの専門医で、午前診療（３時間30分）で50～60人を診察いただける方をお願いしています。予約制ではないため、当日受診の患者さん全員を診療いただくことが前提です。患者層や診療内容を伝えるほか、条件に合致する医師を派遣してもらえるように医局担当者とも密にコミュニケーションを図ります。

②診療体制の詳細を伝える

内定された段階で、診療内容や診療体制（可能な検査、精査が必要な場合の紹介先、シュライバー担当制の採用など）、雇用条件（１コマ５万円～※実績・役職等で調整）、交通案内、雇用関連の手続きなど、再度詳細に説明します。

③スタッフに周知

スタッフには事前にどんな医師が来られるか説明して疑問を解消しておきます。できる限り良い印象を与え、安心して受け入れられる雰囲気をつくります。

④指摘や不明点は迅速に対応

勤務開始以降は、コミュニケーションを密にしてスタッフにも声をかけ、指摘や不明点などをすぐに拾い上げられるようにしています。新型コロナやインフルエンザなど、日々変化する制度や診療体制についてもフォローします。

⑤感謝の気持ちを伝える

診療前後のコミュニケーションに加え、コロナ禍以降は夏と冬に、「感謝のメッセージ」入りのグルメカタログギフトを全スタッフに配布しています。

＊

信頼関係を築くなかで、「いずれ開業したい」という相談を受けることもあります。ありがたいことに「ロングウッドの分院として診療したい」と希望いただくこともあり、時期や開業地、条件などで合意に至った場合は分院長に就任いただいています。

一般社団法人診療所事務長会
https://cl-manager.com/
2016年1月発足の診療所事務長の会。診療所事務長や院長などが集まり月1回の勉強会を開催しているほか、日々の仕事についても互いに助け合っている